

## 吉備中央町のPFAS 最新情報

### 脱プラサークル

みなさん、2023年にPFAS汚染が発覚した岡山県吉備中央町の問題を覚えていますか？吉備中央町では、水道水のPFOA汚染が発覚しました。基準値の16倍～28倍の汚染です。少なくとも3年間、水道水として供給されていました。

原因は、汚染された活性炭が、浄水場の上流に長い間放置されていたことです。15年も放置されていたそうです。放置していたのは、満栄工業株式会社です。満栄工業は大正10年(1921年)創業の老舗企業で、活性炭の製造及び活性炭リサイクル業者です。PFAS汚染が発覚した時、町内放送でいきなり「水道水を飲まないでください」と流れたそうです。住民たちは、2023年11月、27名の有志で、自主的な血液検査を受けました。27名の平均値は、171ナノグラムという高い値でした。その後、公費による血液検査でも高い数値が確認されました。町民709人(子ども2歳から12歳65人)の結果は、PFOAの平均値は、135,6ナノグラムでした。これは、沖縄や多摩地区などに比べてもかなり高い値です。(アメリカの指標値は、7PFASで20ナノグラム)。住民たち、とりわけ子どもたちの健康への不安が増大しています。

そして、2026年5月、「満栄工業株式会社」は、汚染された活性炭は、大阪のダイキン工業のものだと明らかにしました。満栄工業は「一社だけで責任を負えるものではないので、ダイキンに対して公害調停を申請中」と公表しました。ダイキン工業は、自分たちのものではないと否定していますが、ダイキンのPFAS汚染のサンプルを持っていた京都大学の原田浩二教授が成分の分析をしたところ、同じものであると説明しています。環境問題を調査・報道している「Tansa」によると「ダイキンは、PFOAの世界8大メーカーの一つで、戦後間もなく開発に着手。2015年までに大量のPFOAを生産してきた。これまでに製造されたPFASが、どれだけ、どこにあるのか、誰も把握できていない。明るみが出ていない汚染地、汚染を今後引き起こす可能性のある地域はないのか、ダイキンによる早急な検証と説明が必要だ。」と、報道しています。

まさに、その通りだと思います。これ以上汚染を広げない為に、ダイキンに検証と説明を求めたいです。



KSB 瀬戸内海放送より